

道徳1年「決断！ 骨髄バンク移植第一号」 S.A教諭

【内容項目】生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する。

中学生の時期は、比較的健康に毎日が過ごせる場合が多いため、自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験を持つことも少なくなっている。

一方で、今回取り上げる骨髄バンクなど生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ、話し合い、多様な考えを交流することにより、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることができる。

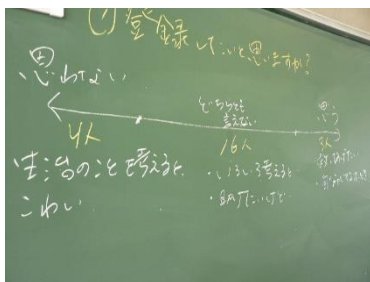
【授業の流れ】

- (1) あなたは人の役に立ちたいと思うか。
- (2) 骨髄移植と骨髄バンクについて知る。

自作のパワーポイントで、テンポよく説明される。



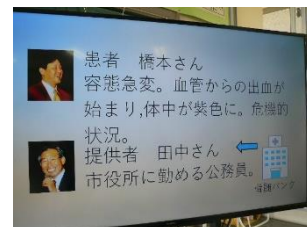
質問が自由に飛び交う学級の雰囲気



生徒は自分事として考え、自分の考えに理由を添えて発表していた。

- (3) 教師による範読

33年前の今日(9/13)、日本で初めて骨髄移植が行われた。



- (4) 資料を通して、主人公もみんなと同じように葛藤していたこと(同質性)を知るとともに、自分の生き方を決めていったことを知る(異質性)。

ワンポイント

前半に同質性の部分を扱う。後半に異質性の部分を扱う。

- (5) 最終的には資料から離れ、中心発問と向き合う。
「これまでに命の大切さやありがたさを実感したことにはどのようなことがあるか。」
生徒はこれまでの自分の体験や生活を振り返っていた。

- (6) 教師の体験談を聞く。

教師の思いを聞き、命の大切さを身近に感じるとともに、教師との信頼関係が深まる。

本校の今年度の重点目標

【道徳・特活の充実】「所属集団をより良いものにするために、主体的に考え行動する生徒の育成」